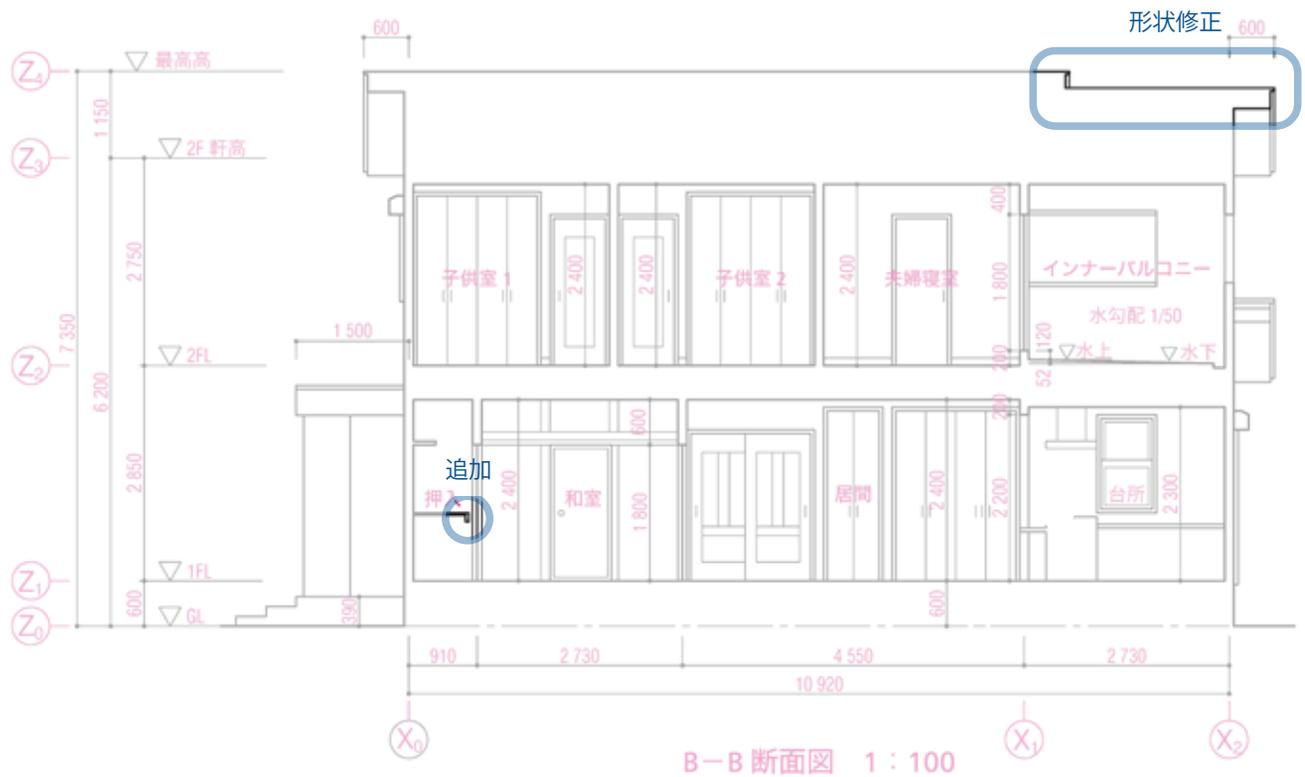


## 〈B - B 断面図〉

### 〈完成図〉

平側の断面図を描く場合、屋根は棟の部分で切断したものとして表す。



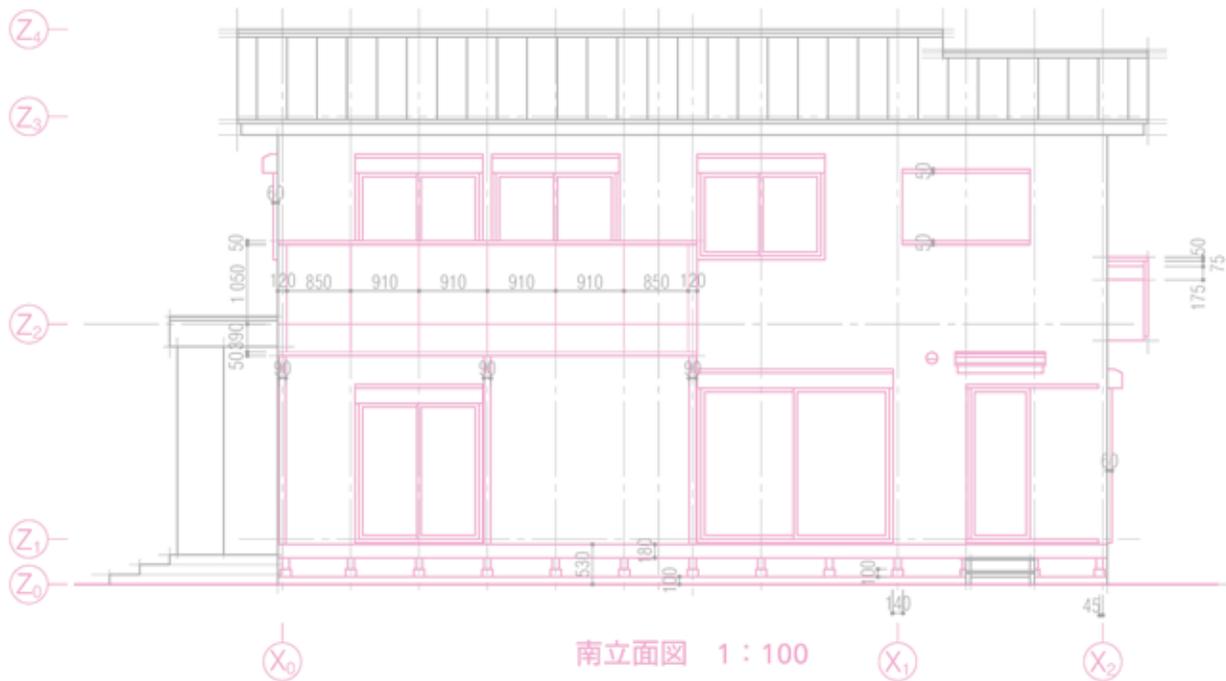
### ◎断面図と立面図の関係

立面図は、東・西・南・北それぞれの方向から見た外観を表したものである。  
立面図を描くのに必要な各部の高さは、断面図の高さを利用すると便利である。



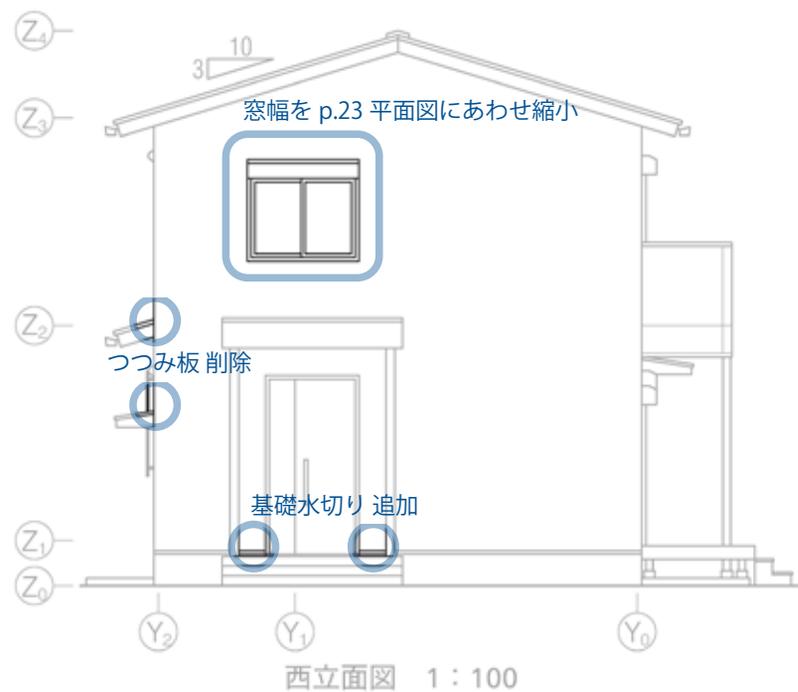
## 5) 開口部, ウッドデッキなどの記入

- (1) [開口部・建具の描き方] (p.34) を参考に開口部を仕上げ (太い実線).
- (2) パルコニー上げる (外形: 太い実線, 目地: 細い実線).
- (3) かなばかり図, 断面詳細図を参考にぬれ縁・ウッドデッキを記入する (太い実線).
- (4) 地盤線 (GL) を仕上げる (極太の実線).
- (5) 図面名・縮尺などを記入し完成させる.



## 〈西立面図〉

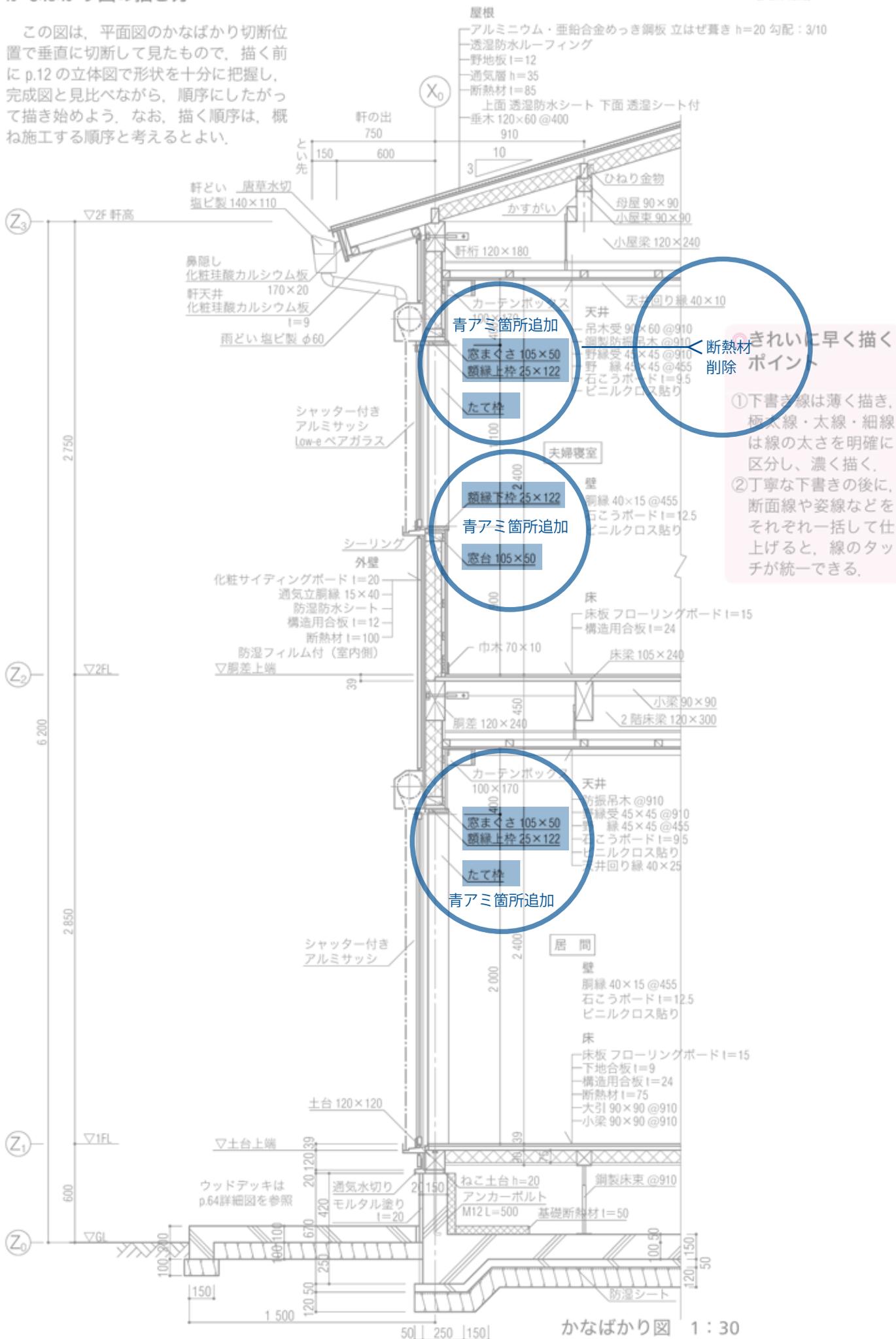
〈完成図〉



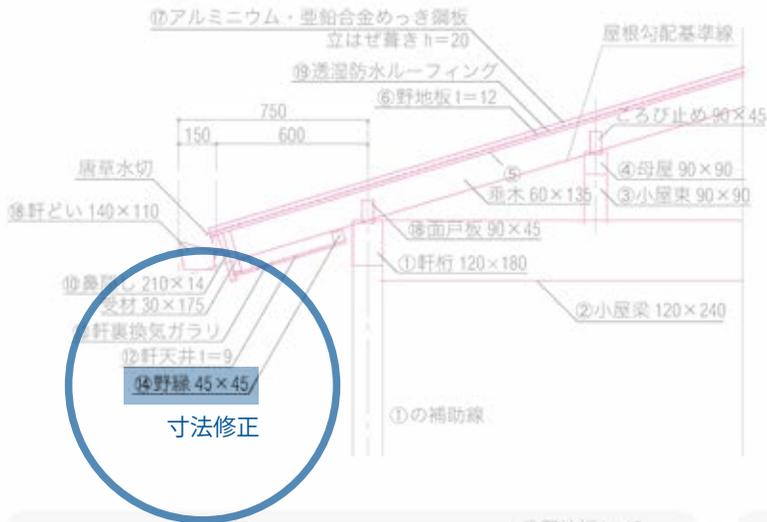
かなばかり図の描き方

(完成図)

この図は、平面図のかなばかり切断位置で垂直に切断して見たもので、描く前に p.12 の立体図で形状を十分に把握し、完成図と見比べながら、順序にしたがって描き始めよう。なお、描く順序は、概ね施工する順序と考えるとよい。



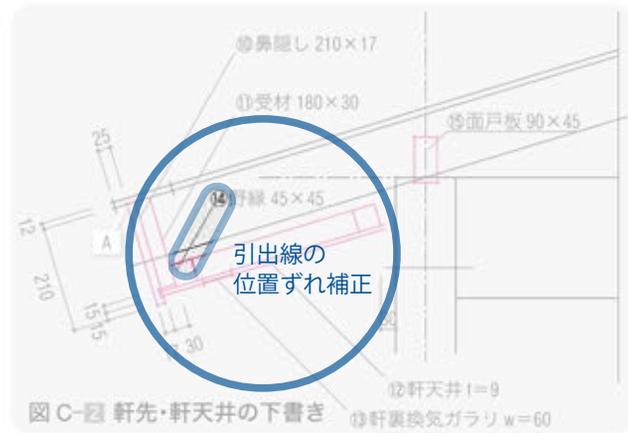
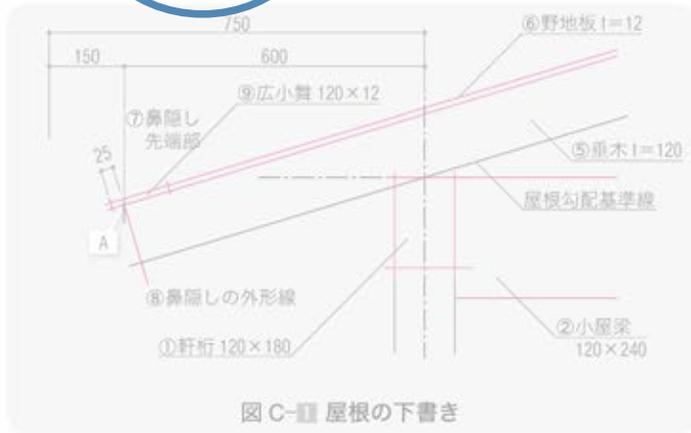
## 2-7 かなばかり図



### 3) 屋根・小屋組の下書き (図D参照)

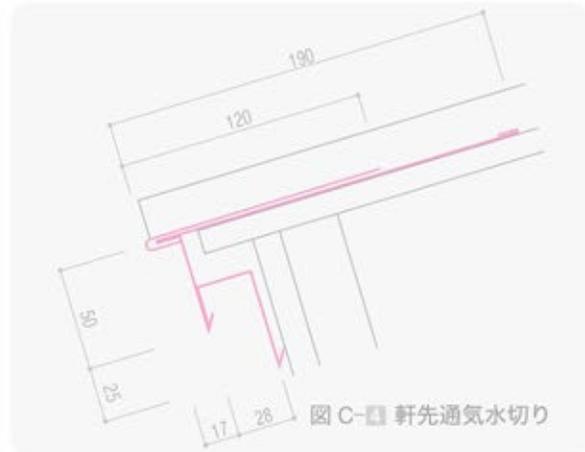
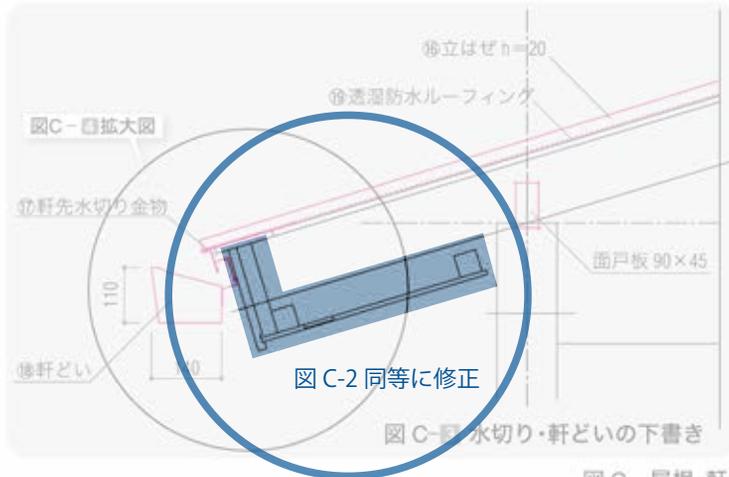
本例では屋根通気下地を採用している (図D)。

- (1) 軒桁の断面①、小屋梁のせい②を描く (図C-1)。
- (2) 小屋束③、母屋④を描く。
- (3) 屋根勾配基準線に平行に垂木上端⑤、野地板の厚さ⑥を引く。
- (4) 鼻隠し先端部⑦と垂木上端との交点Aをとり、屋根勾配に対して直角に鼻隠しの外形線⑧を引く (図C-1)。
- (5) 線⑧から平行に25mmとり、広小舞⑨を描く (図C-1)。



図C-1 屋根の下書き

図C-2 軒先・軒天井の下書き

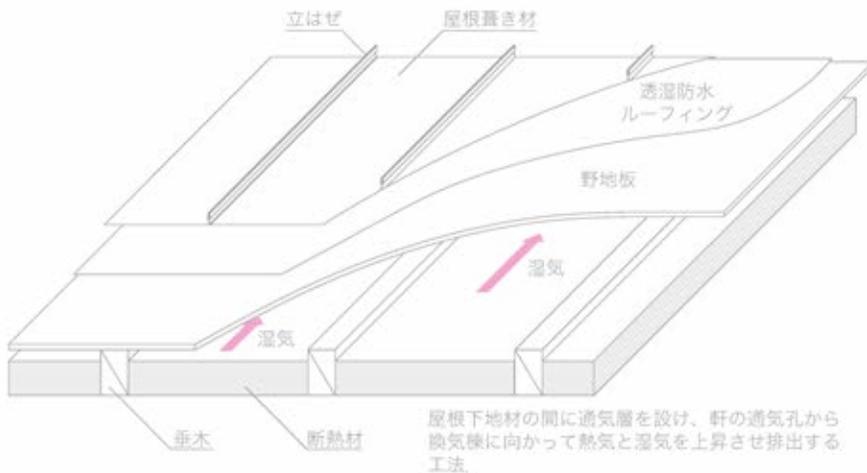


図C-2 同等に修正

図C-3 水切り・軒どいの下書き

図C-4 軒先通気水切り

図C 屋根・軒先の描き方



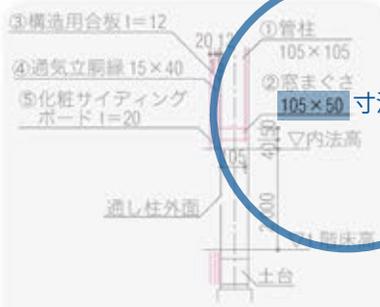
図D 屋根通気下地構成

- (6) 線⑧から平行に17mmとり鼻隠し⑩、さらに30mmをとって受材⑪を描く (図C-2)。
- (7) 軒天井の散りと厚さ⑫、通気口⑬、野緑⑭、面戸板⑮を描く (図C-2)。
- (8) 立はせの上端⑯を描く (図C-2)。
- (9) 軒先の水切り金物⑰ (図C-3)、軒どい⑱を描く (図C-3)。
- (10) 透湿防水ルーフィング⑩の破線を引く。

4) 外壁・外部開口部の下書き (図 G 参照)

- 本例では、外壁通気下地を採用している (図 H 参照)。  
 (1) 管柱の幅①を通し柱の外側からとる (図 E-1)。  
 (2) 窓まぐさ②を描く、

- (3) 柱の外側に構造用合板③、通気立胴縁④、化粧サイディングボード⑤の厚さをとる。  
 (4) 1階のサッシ枠の幅⑥⑦、下枠⑧、上枠⑨を描く (図 E-2)。



■ 外壁下地・窓まぐさの下書き



図 1 階サッシ外枠の下書き (図 F 参照)



図 1 階サッシの下書き (図 G, H, I 参照)



■ 2階サッシ枠の下書き

図 E 外部開口部回りの描き方

図 I シーリング・金物等の参考図

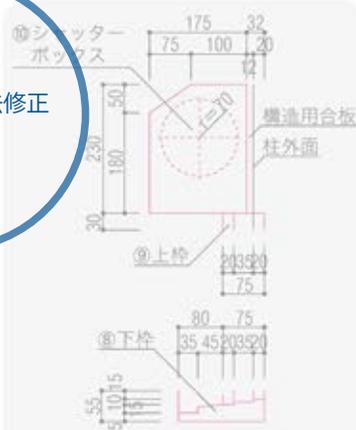


図 F サッシ外枠の描き方

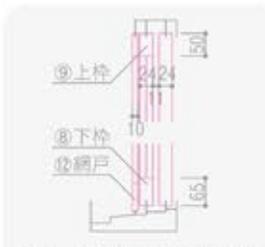
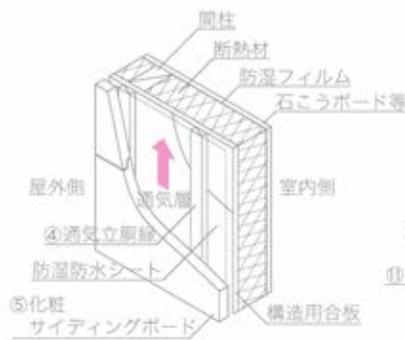
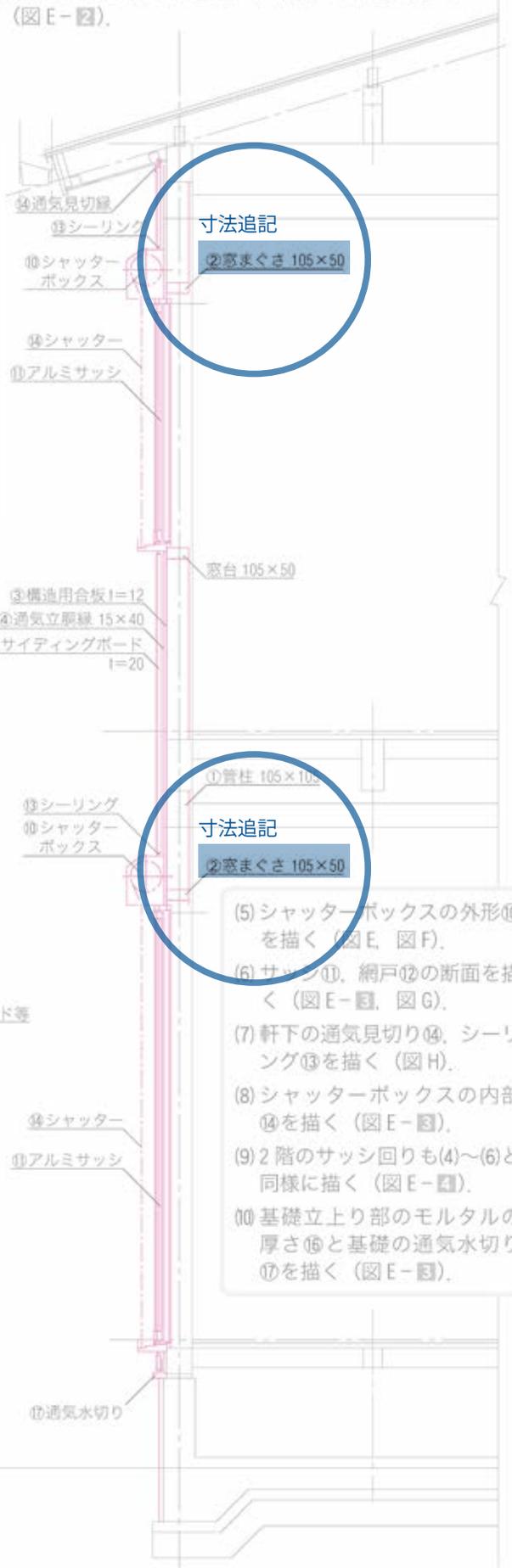


図 G サッシ枠の描き方



外壁材と下地材との間に通気層を設け、外壁内の熱気と湿気を頂部から排出する機能を有する壁下地の構法。

図 H 通気外壁下地構法の例



寸法追記

②窓まぐさ 105×50

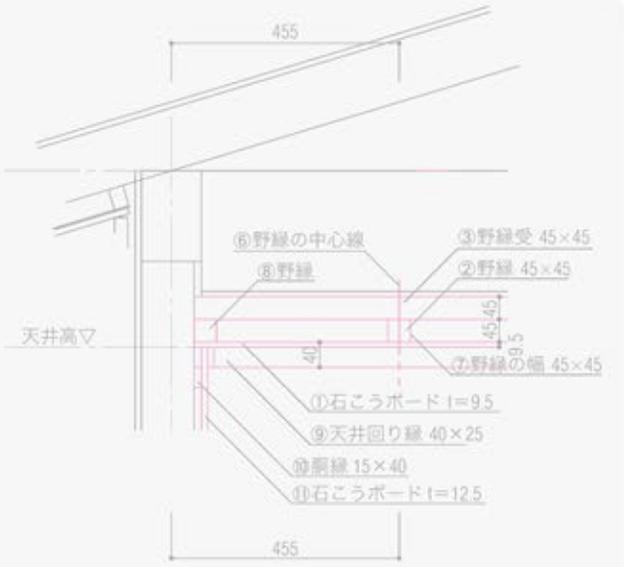
寸法追記

②窓まぐさ 105×50

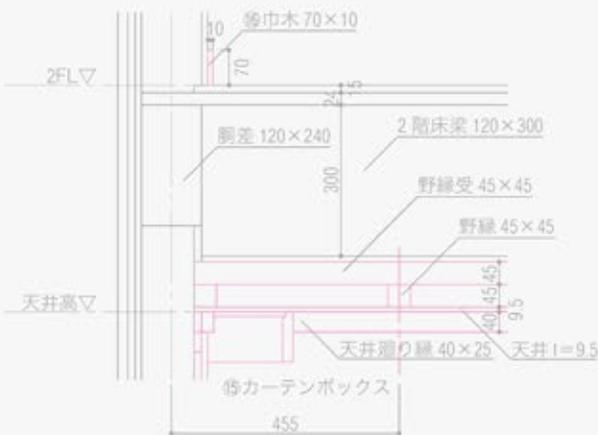
- (5) シャッターボックスの外形⑩を描く (図 E, 図 F)。  
 (6) サッシ⑪、網戸⑫の断面を描く (図 E-3, 図 G)。  
 (7) 軒下の通気見切り⑬、シーリング⑭を描く (図 H)。  
 (8) シャッターボックスの内部⑮を描く (図 E-3)。  
 (9) 2階のサッシ回りも(4)~(6)と同様に描く (図 E-2)。  
 (10) 基礎立上り部のモルタルの厚さ⑯と基礎の通気水切り⑰を描く (図 E-3)。

## 2-7 かなばかり図

### 5) 天井、内壁の下書き



■ 2階天井・壁の下書き

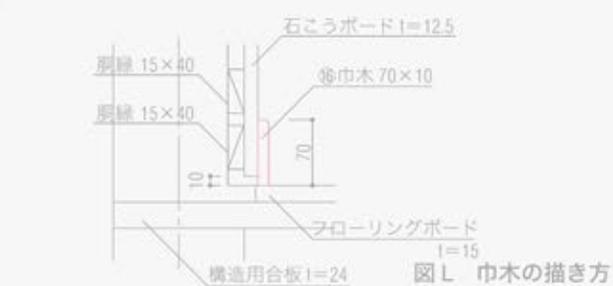


■ 1階天井・壁の下書き

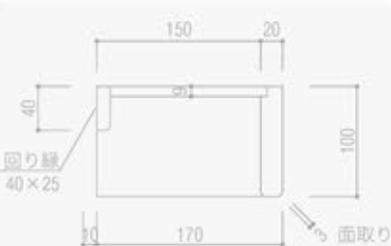
図J 室内天井・壁の描き方



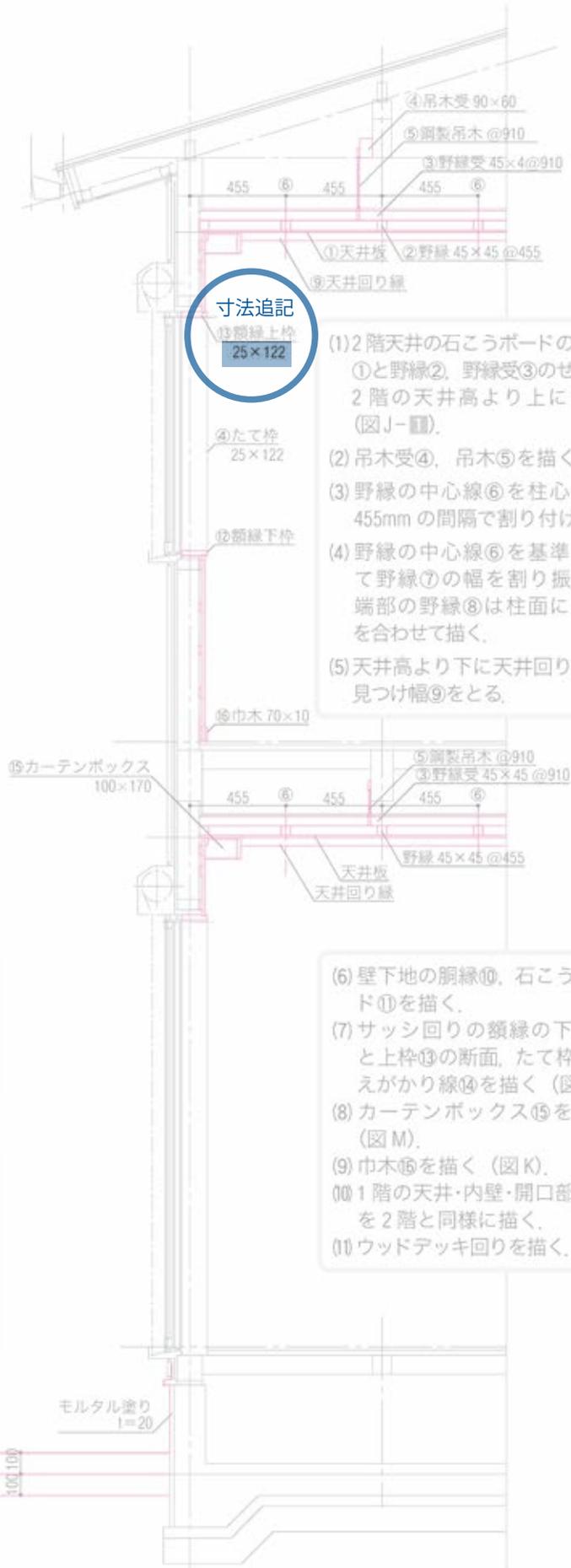
図K 額縁の描き方



図L 巾木の描き方



図M カーテンボックスの描き方



寸法追記

⑬額縁上枠  
25×122

(1) 2階天井の石こうボードの厚さ①と野縁②、野縁受③のせいを2階の天井高より上に引く(図J-■)。

(2) 吊木受④、吊木⑤を描く。

(3) 野縁の中心線⑥を柱心より455mmの間隔で割り付ける。

(4) 野縁の中心線⑥を基準にして野縁⑦の幅を割り振る。端部の野縁⑧は柱面に上端を合わせて描く。

(5) 天井高より下に天井回り縁の見つけ幅⑨をとる。

(6) 壁下地の胴縁⑩、石こうボード⑪を描く。

(7) サッシ回りの額縁の下枠⑫と上枠⑬の断面、たて枠の見えがかり線⑭を描く(図K)。

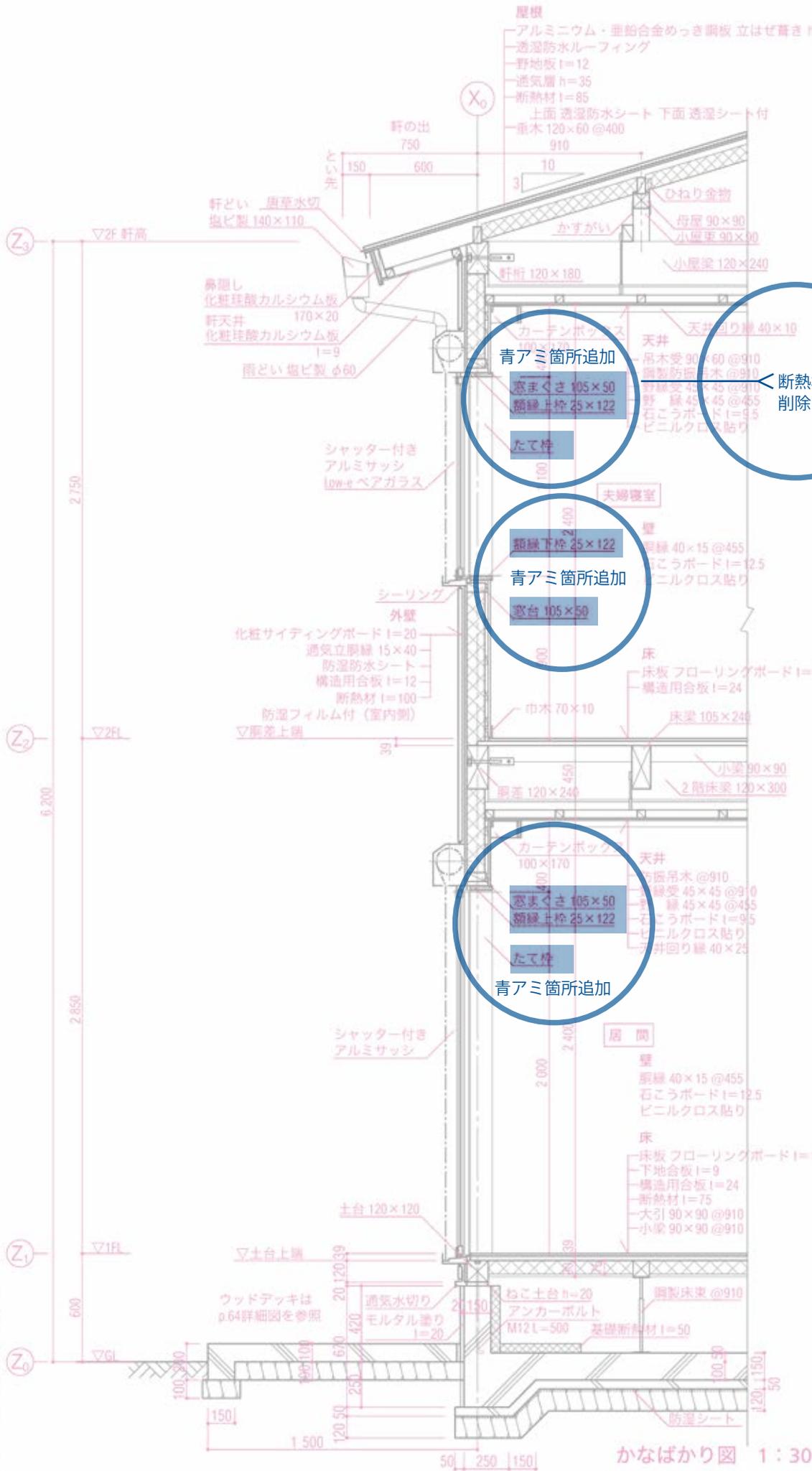
(8) カーテンボックス⑮を描く(図M)。

(9) 巾木⑥を描く(図K)。

(10) 1階の天井・内壁・開口部回りを2階と同様に描く。

(11) ウッドデッキ回りを描く。

## 2-7 かなばかり図

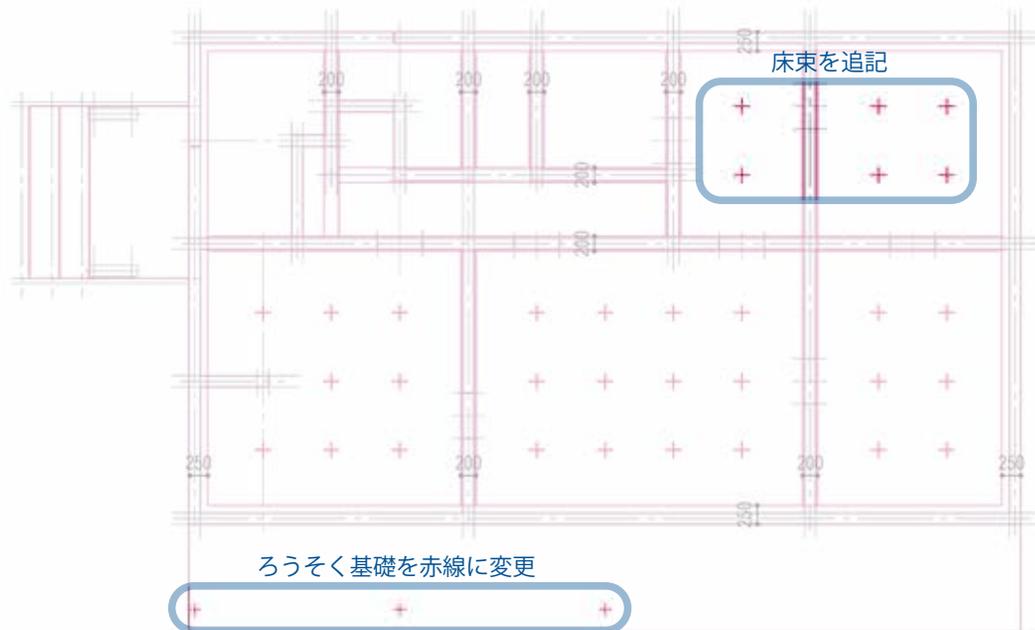


### 8) 基準線・寸法・名称などの記入

- (1) 中心線・基準線・破断線などを細い実線で仕上げる。
- (2) 寸法線・寸法補助線を細い実線で引き、寸法・基準記号を記入する。
- (3) 室内・各部の名称・材料名、図面名・縮尺などを記入して完成させる。

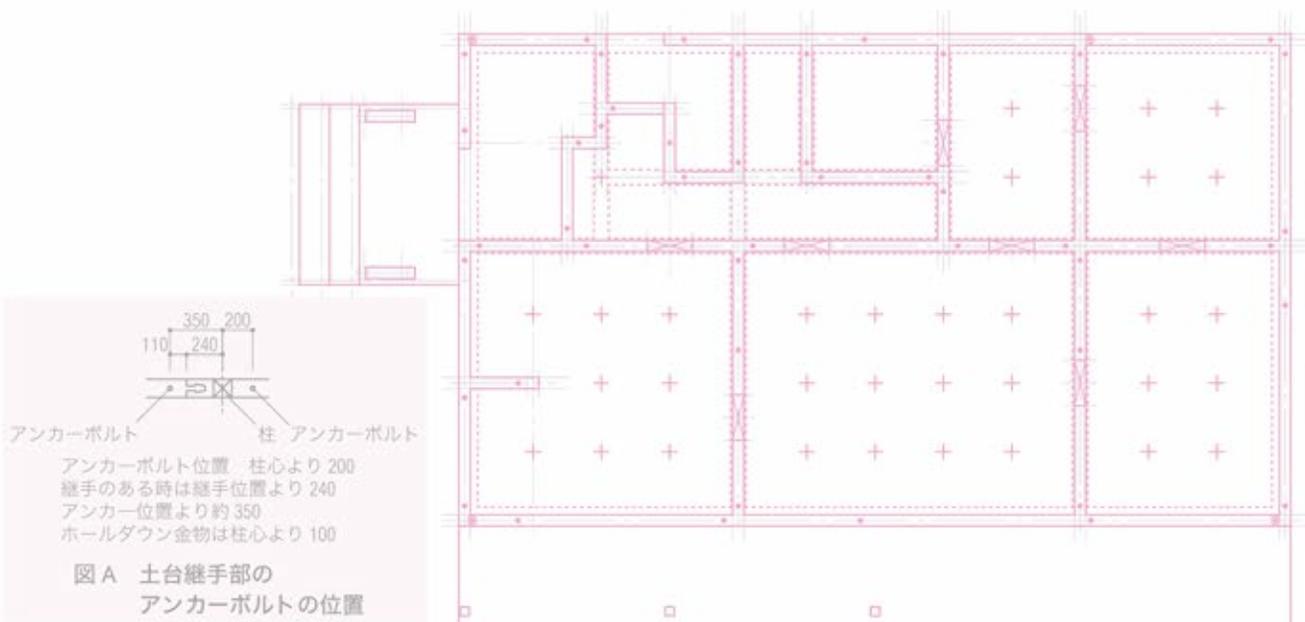
## 3) フーチング・床束の下書き

- (1) フーチングの幅を下書きする。  
※ 基礎リスト表参照  
(外壁に面した基礎は 250mm, 間仕切壁部分は 200mm とする)
- (2) 床束 (鋼製束) の位置を 910mm 間隔で下書きする。
- (3) ろうそく基礎を下書きする。



## 4) 基礎の仕上げ

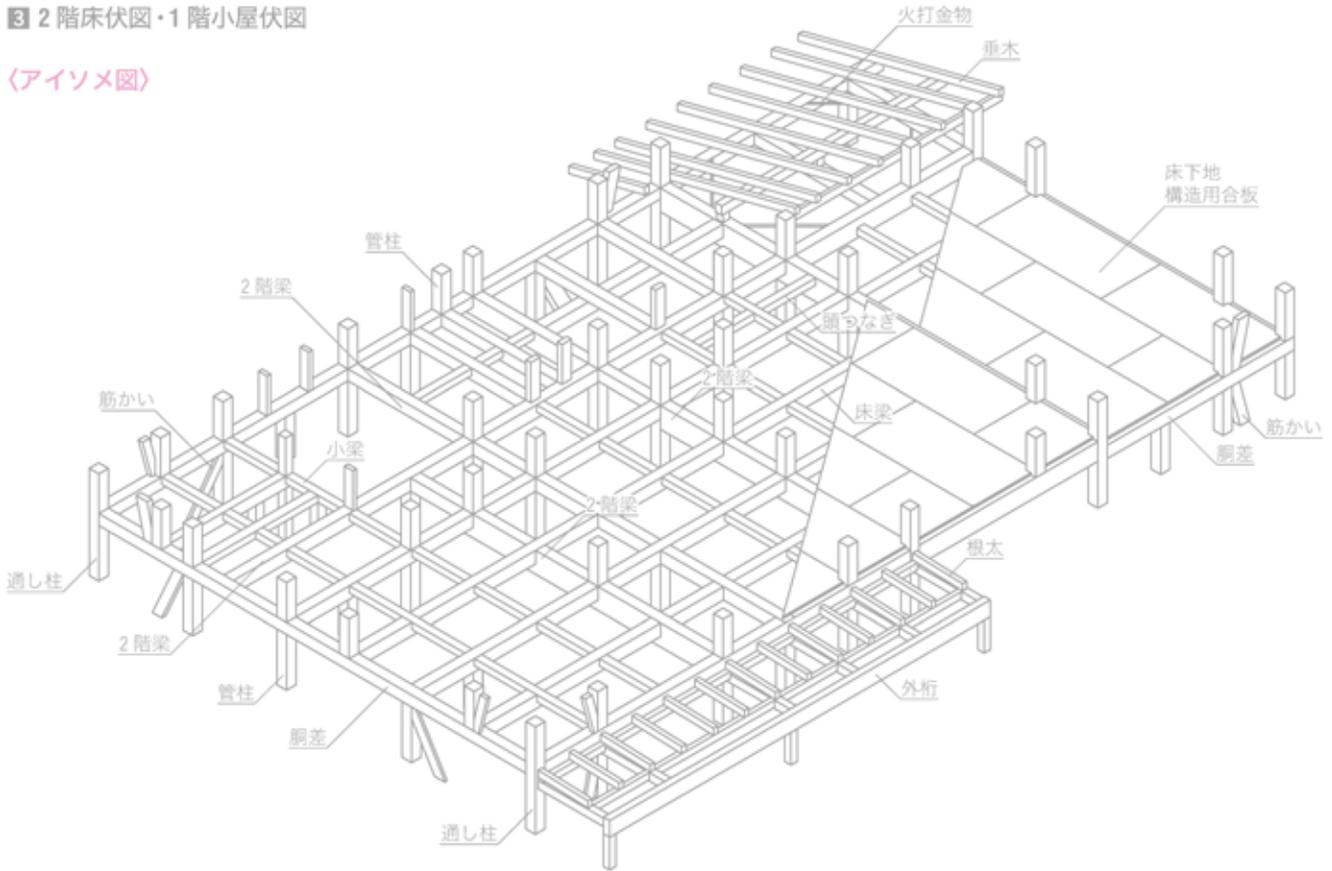
- (1) 基礎の立ち上がり部分を仕上げる (太い実線)。
- (2) フーチングを仕上げる (太い破線)。
- (3) 人開口を仕上げる (太い実線)。  
(対角線は細い実線)
- (4) 床束の位置を仕上げる (太い実線)。
- (5) 玄関ポーチおよびウッドデッキ部分の土間コンクリートを仕上げる (細い実線)。
- (6) アンカーボルトとホールダウン金物を要所に記入する (図 A 参照)。



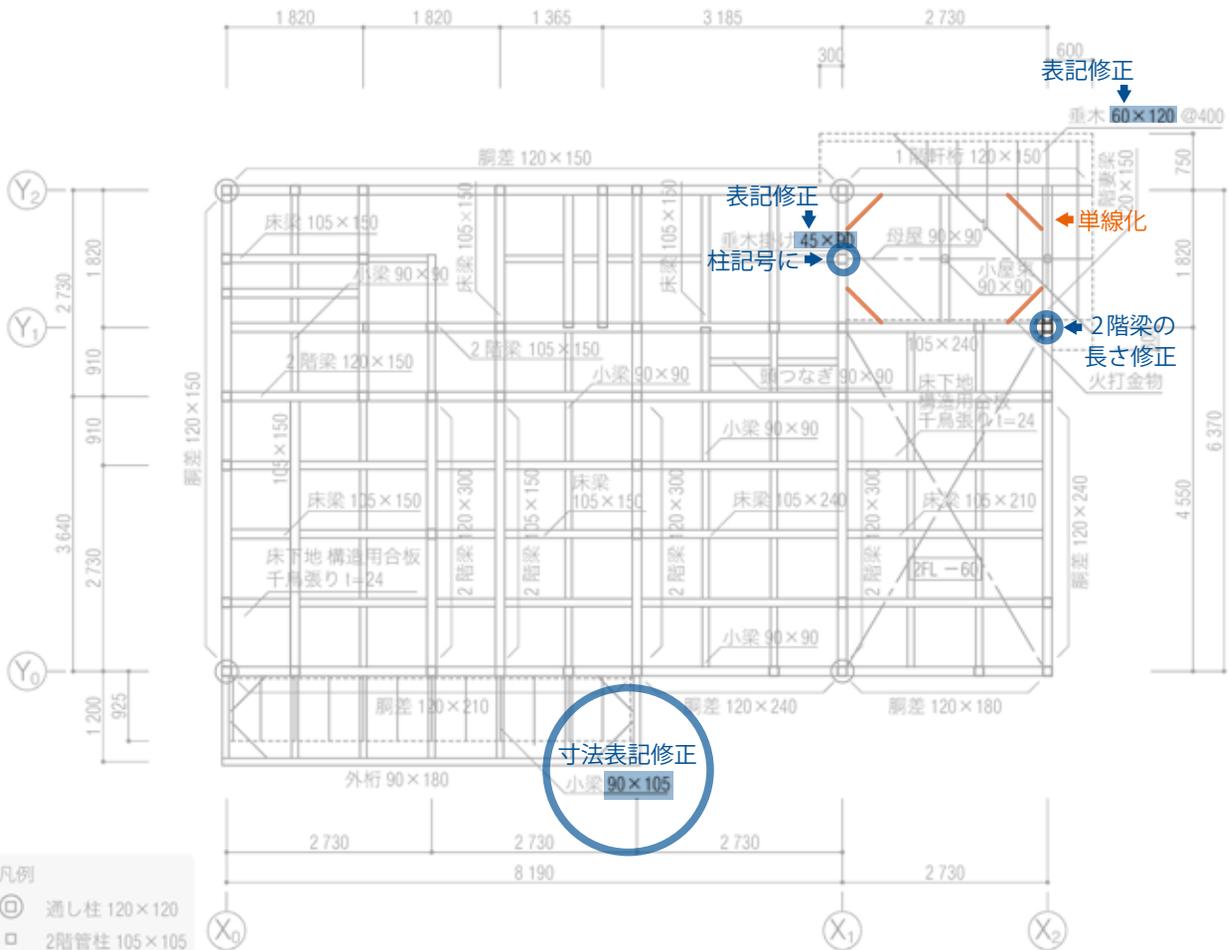
## 2・8 各種伏図

### 3 2階床伏図・1階小屋伏図

〈アイソメ図〉



〈完成図〉



1) 中心線の下書き

★手順の修正

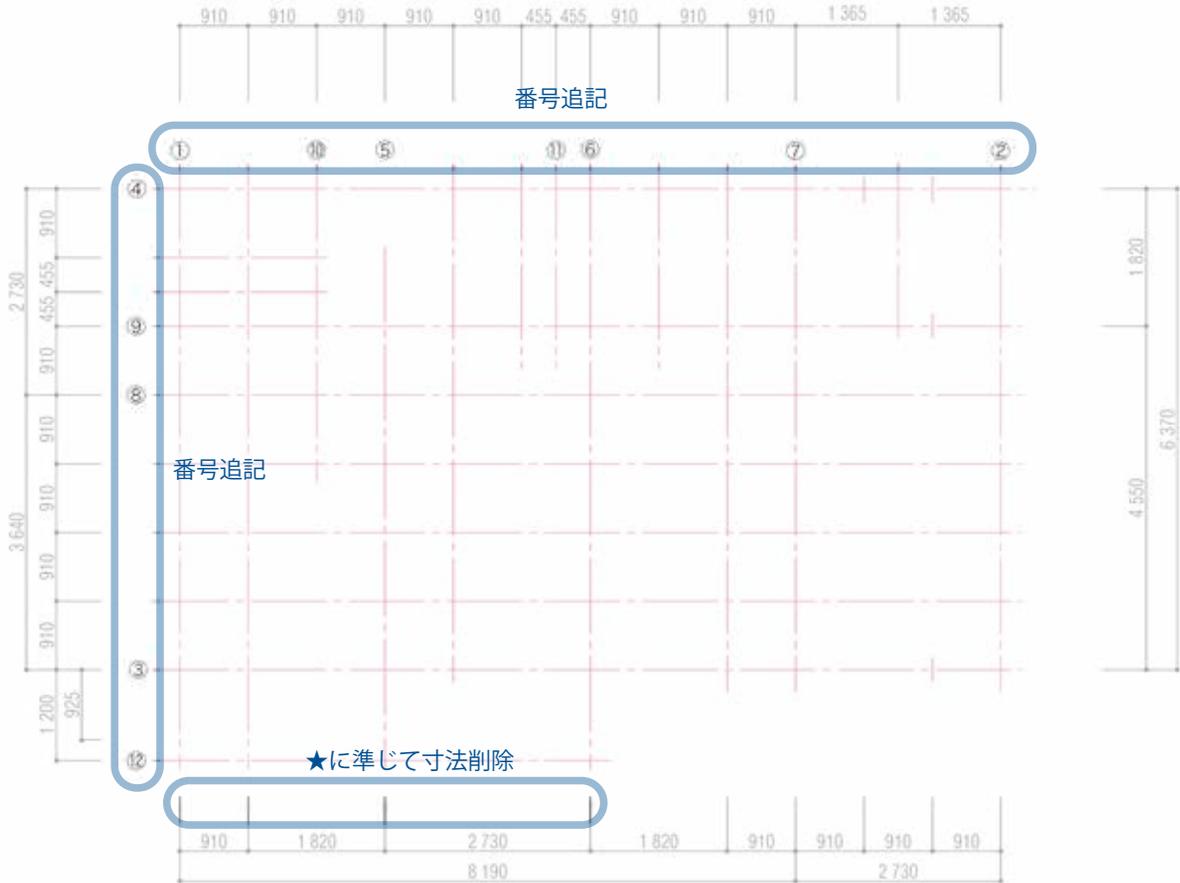
2階床伏図・1階小屋伏図を1:100の縮尺で描く

(3) その他の壁芯(間仕切壁心)を下書きする。

(1) 外壁心①~④を下書きする。

(4) バルコニー手すり中心線⑫を下書きする。

(2) 主要な壁の通り心⑤~⑪を下書きする。

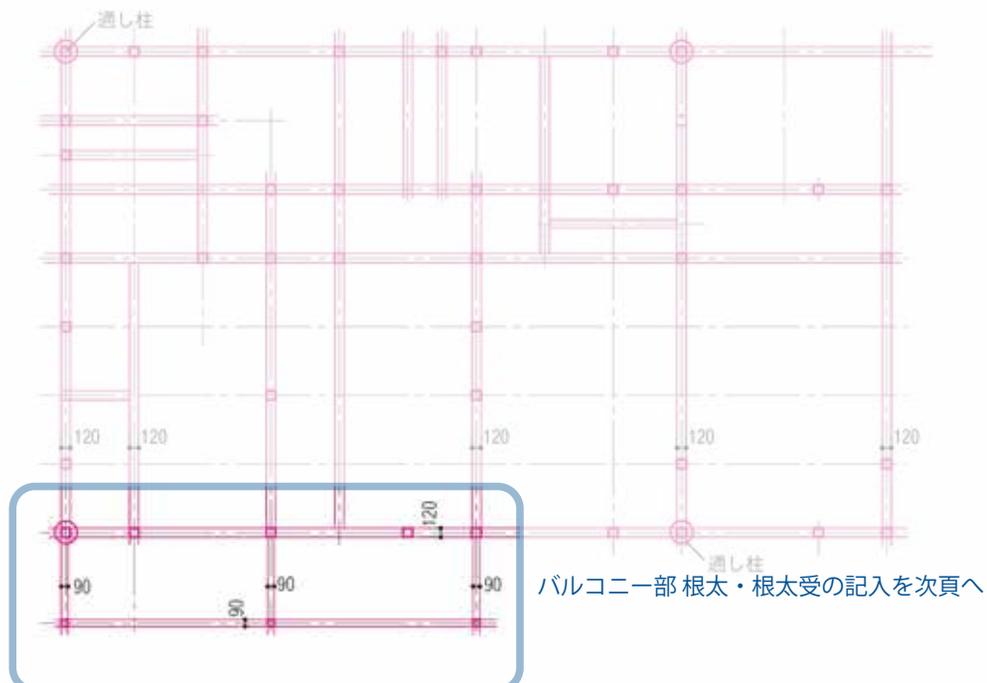


2) 桁・梁・柱の記入

(1) 梁・桁・胴差の幅(120mm)を壁中心線から振り分けて下書きする。

(2) 2階柱を記入する(極太の実線)。

(3) 通し柱に○印を記入する(太い実線)。



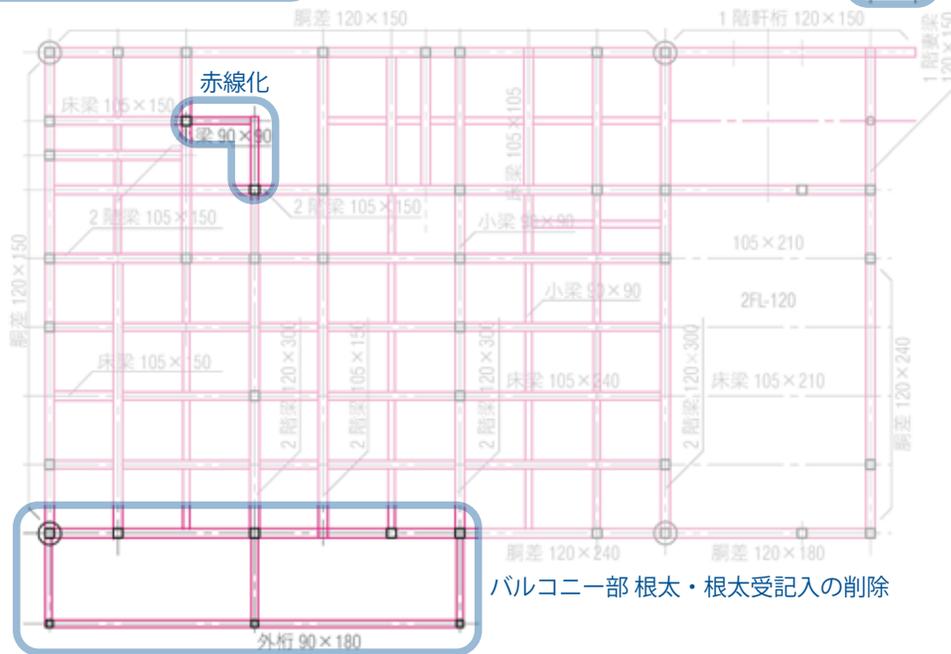
## 2・8 各種伏図

### 3) 床梁・小梁, 母屋・垂木を記入

- (1) 2階梁・床梁を記入する (太い実線)
- (2) 頭つなぎなどを記入する (太い実線)
- (3) 小梁を910mm間隔で記入する (太い実線)

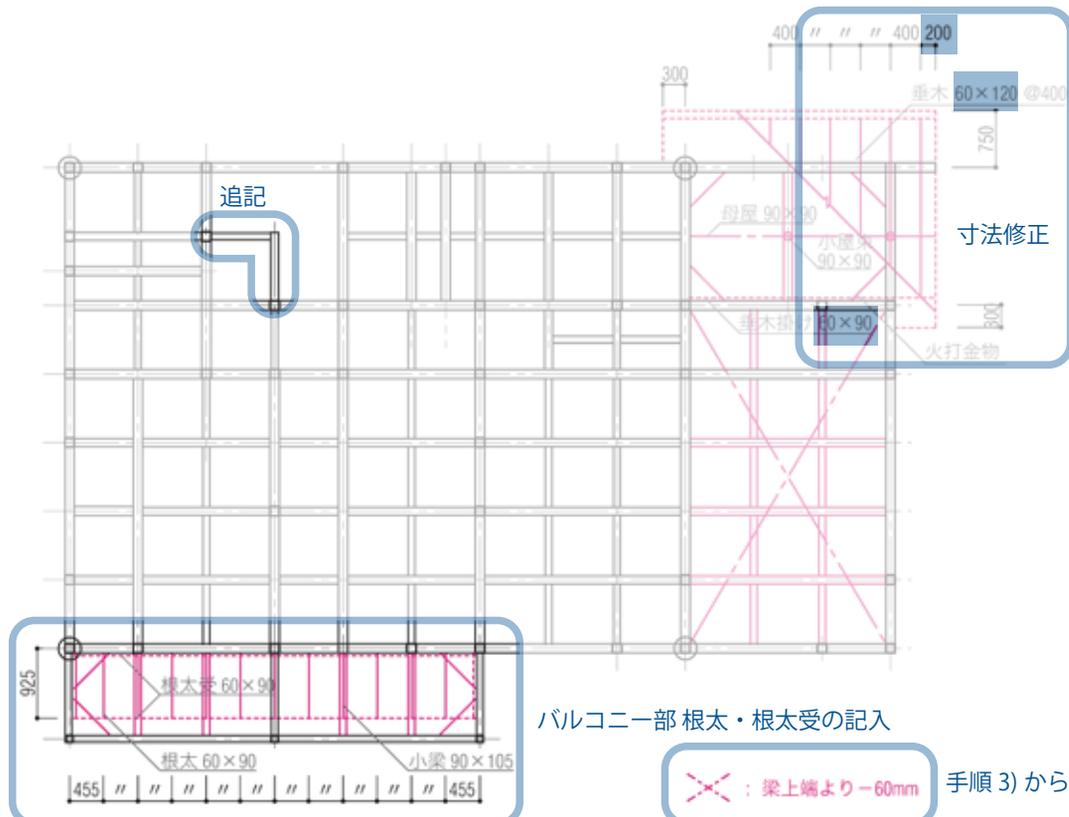
手順 (5)(6) の削除

追記



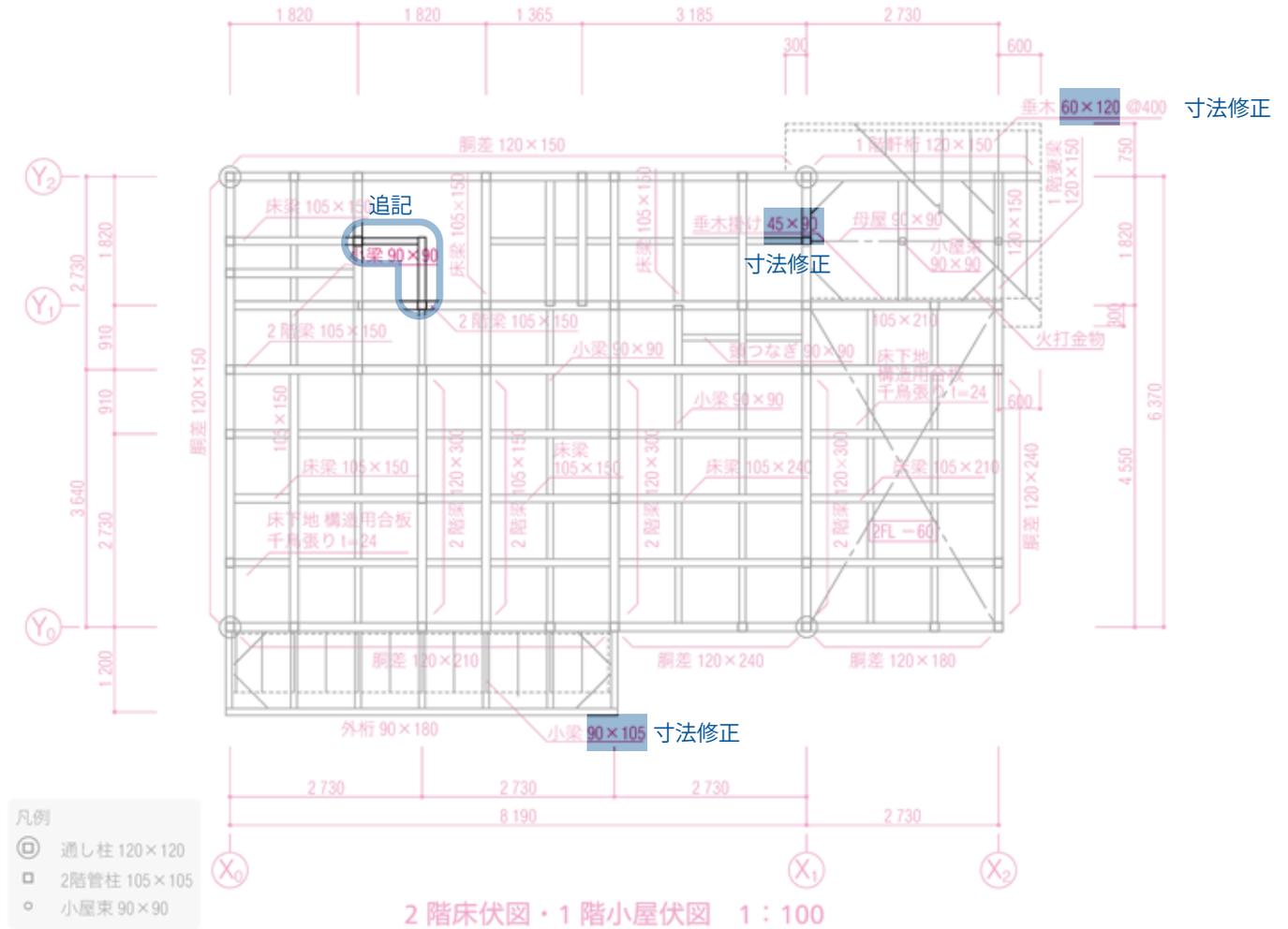
### 4) 軒の出・母屋・垂木等の記入

- (1) 1階屋根の軒の出 (とい先), けらばの出を下書きする (細い実線)
- (2) 小屋梁, 母屋, 小屋束を記入する (太い実線)
- (3) 垂木受を記入する (太い破線)
- (4) 垂木を割り付けて記入する (太い実線)
- (5) バルコニー, インナーバルコニーの根太受, 根太などを記入する,
- (6) 火打金物を記入する (太い実線)



5) 寸法・名称の記入

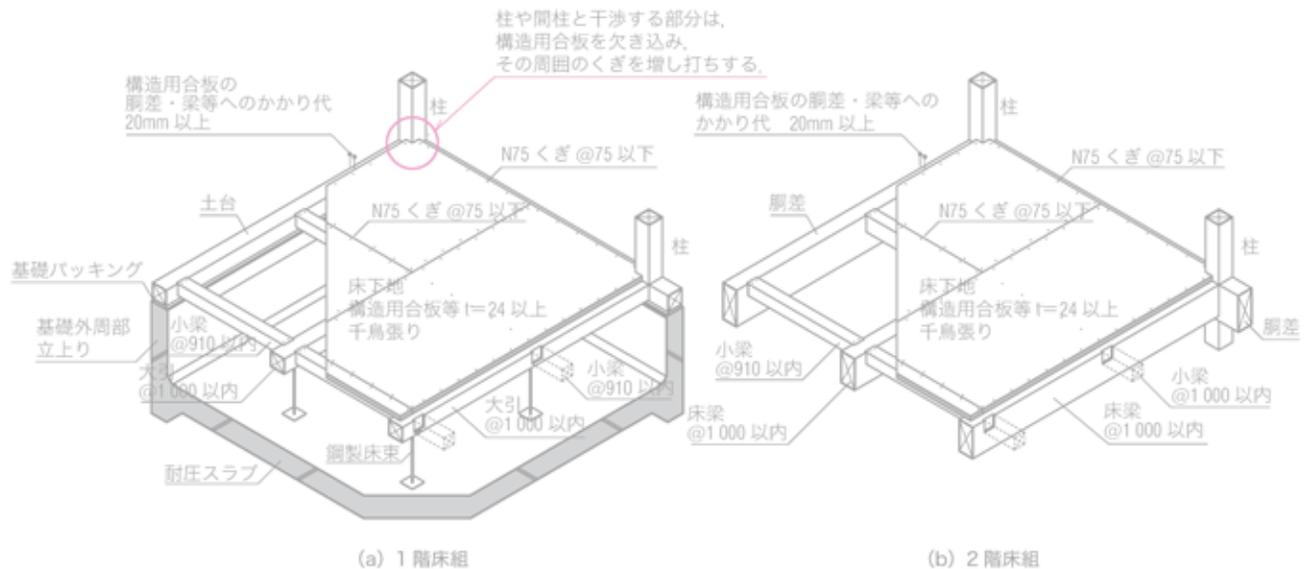
- (1) 寸法線・寸法補助線（細い実線）を引き、寸法を記入する。
- (2) 各部の名称、図面名・縮尺などを記入して完成させる。



《剛床工法》

根太を用いない床組補強の例

根太を用いなくて、一定の基準に適合するように床下地材の構造用合板等を土台や梁・大引等に直接くぎで打ち付けて床の剛性を高める工法、一般に根太レス工法または剛床工法と呼ばれる。



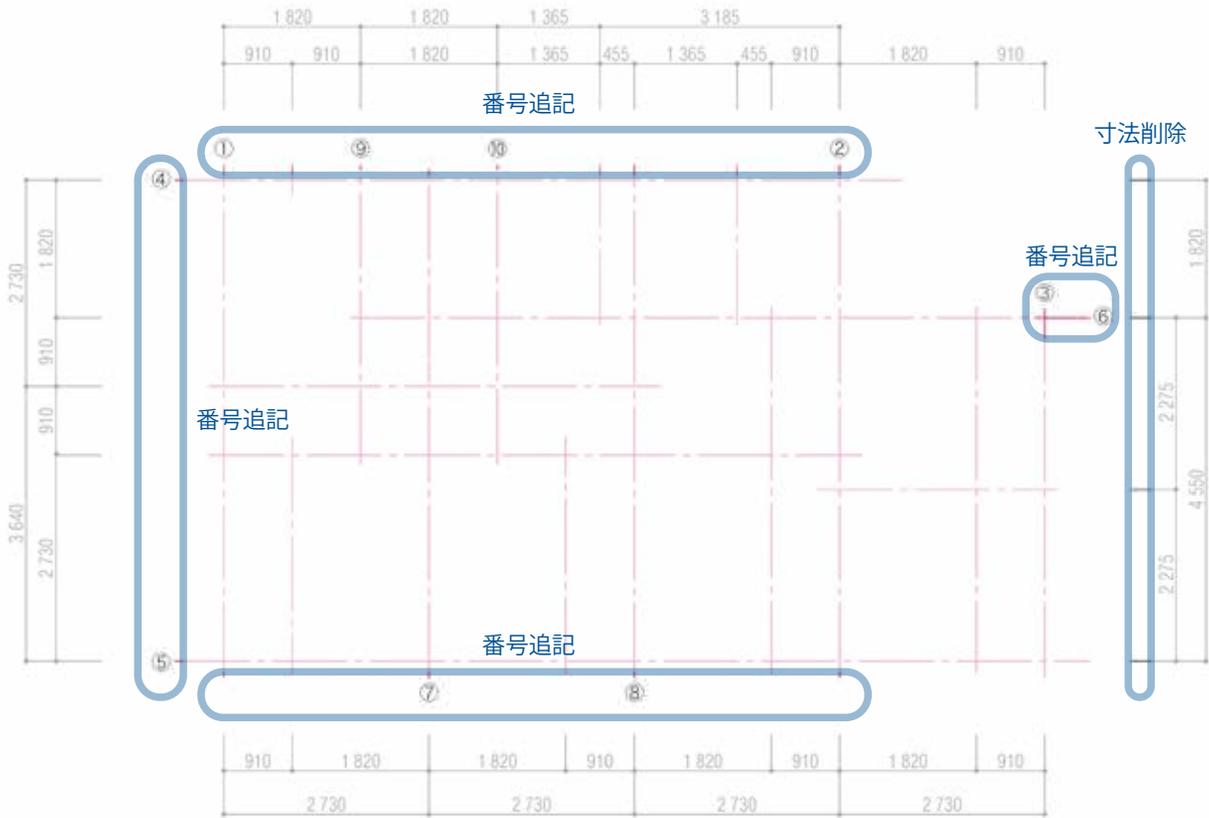
1) 中心線の下書き

2階小屋伏図を1:100の縮尺で描く。

(1) 外壁心①～⑥を下書きする。

(2) 間仕切壁心⑦～⑩などを下書きする。

★手順の修正



2) 軒桁・妻梁・小屋梁などの下書き

(1) 軒桁・妻梁を外壁の位置に下書きする。

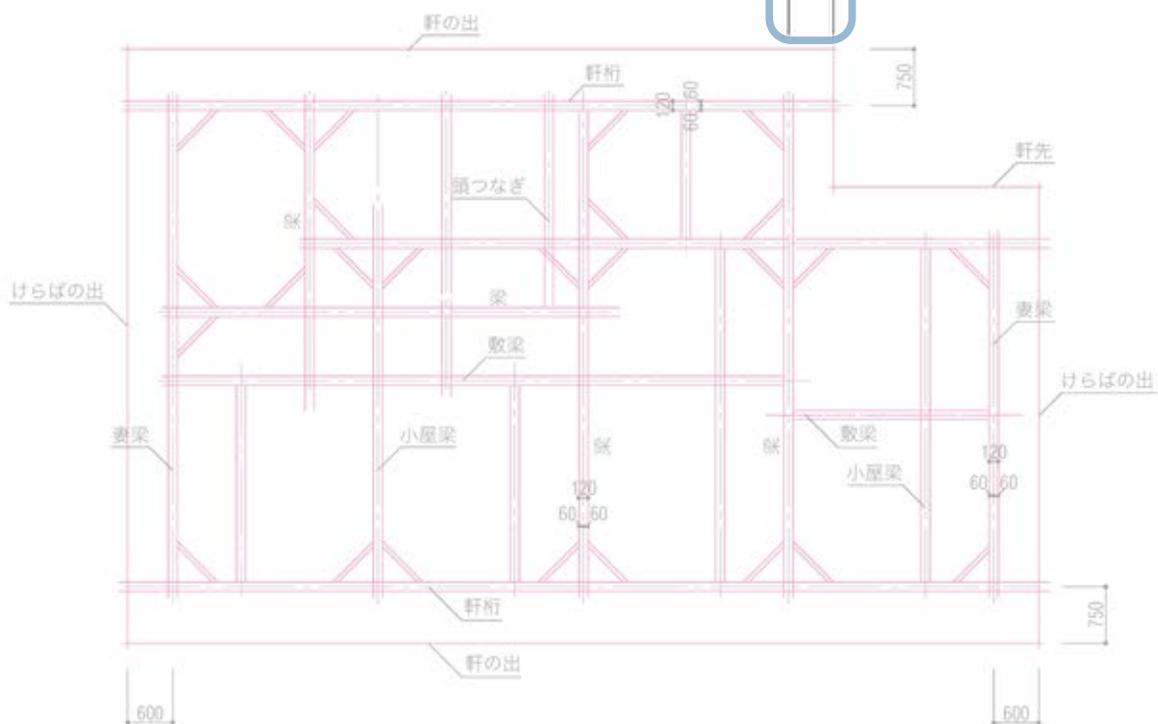
(2) 敷梁・小屋梁を下書きする。

(3) 頭つなぎ・火打金物を下書きする。

(4) 屋根の軒・けらばの出を下書きする。

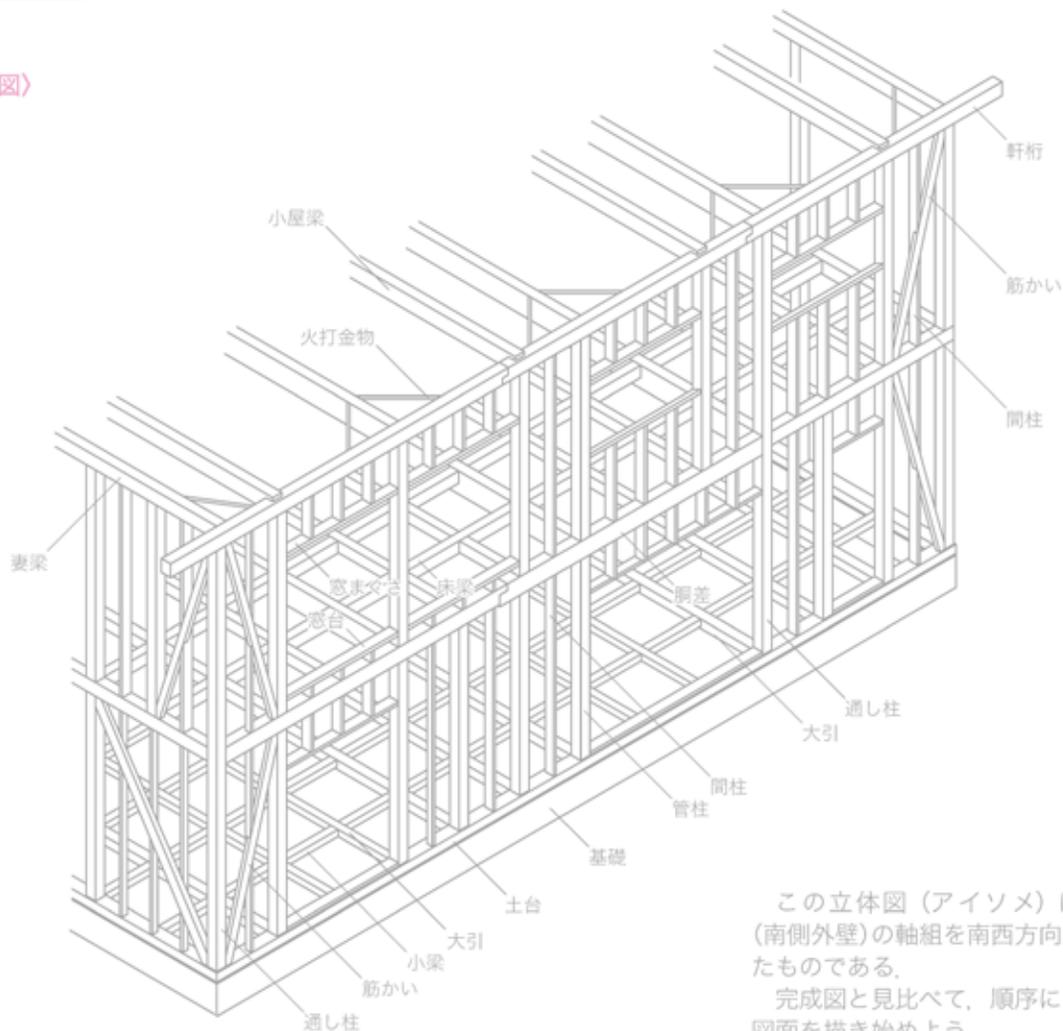
線種削除

追記



## 2-9 軸組図

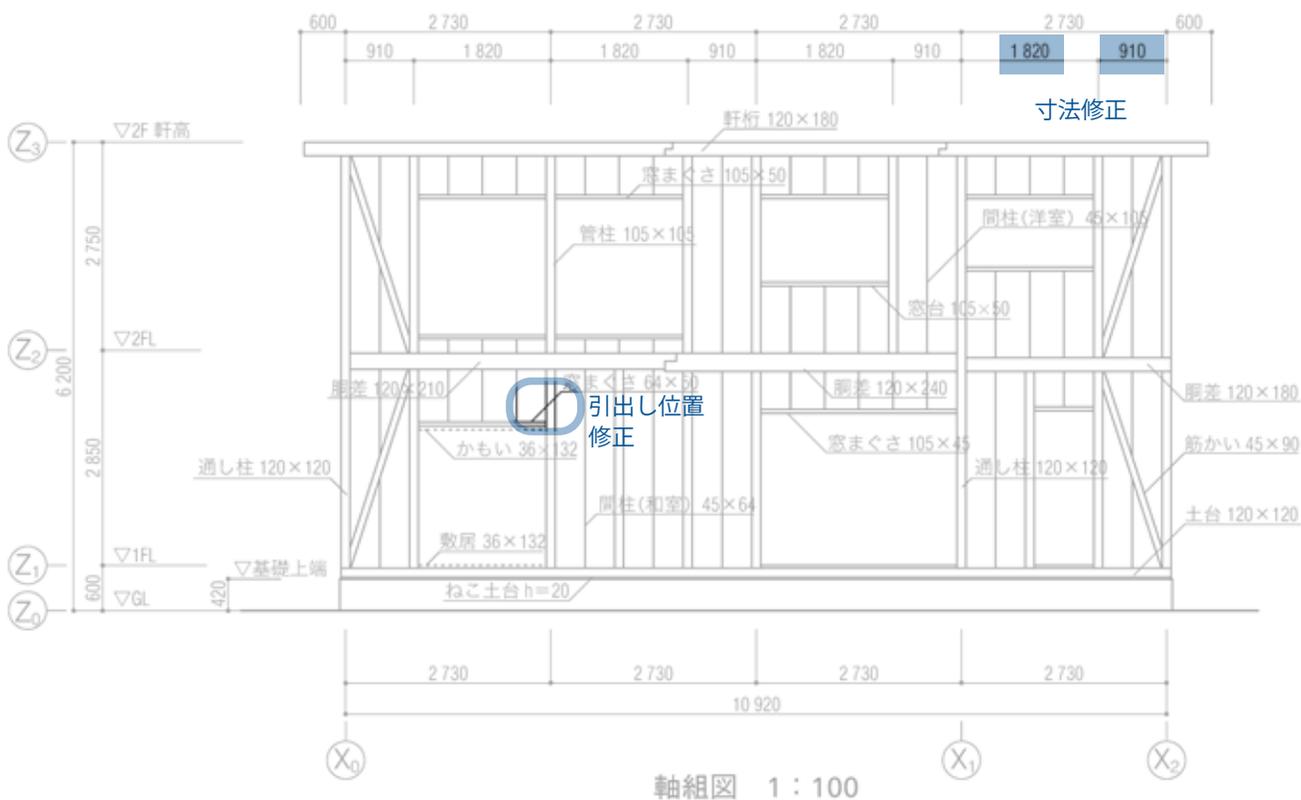
### 〈アイソメ図〉



この立体図（アイソメ）は、 $Y_0$  通り（南側外壁）の軸組を南西方向上空から見たものである。

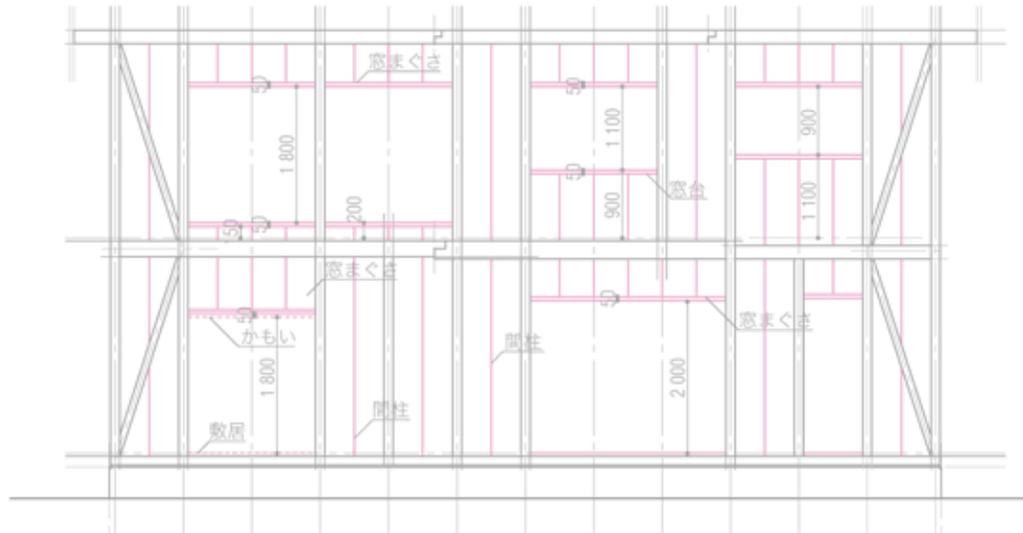
完成図と見比べて、順序にしたがって図面を描き始めよう。

### 〈完成図〉



5) 敷居・鴨居・窓台・窓まぐさ・間柱の記入

- (1) 1階の窓台・窓まぐさを記入する (太い実線).
- (2) 2階の窓台・窓まぐさを記入する (太い実線).
- (3) 1階和室の敷居・かもいを記入する (太い破線).
- (4) 間柱を455mm間隔で記入する (太い実線).
- (5) 敷居・かもいを記入する (太い破線).



6) 寸法・名称の記入

- (1) 寸法線・寸法補助線 (細い実線) を引き、寸法を記入する.
- (2) 各部の名称、図面名・縮尺などを記入し完成させる.

